

第78回剣道指導者研修会 報告書

- a 実施期間 令和6年11月8日（金）～11月10日（日）
- b 実施場所 全日本少年剣道錬成会館
- c 実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年、3年度に中止した本講習は、一昨年度の第75回開催以降、通常3日間の日程で行っていた内容を2日間に短縮して行ってきたが、今回はコロナ禍以前に講習内容を戻し、3日間の日程で行った。遠方からの参加者についても宿泊可とし、相当数の講習生が錬成会館に宿泊した。

講習初日、水田重則講師、石井猛講師、本名和彦講師及び本部講師である太田忠徳講師、豊村東盛講師、栗田和市長講師の全講師による打ち合わせを経て、14時30分に開講式を始めた。太田忠徳講師より全日本剣道道場連盟副会長として挨拶を頂いた後、講師を代表し水田講師より「自分も本講習会でみっちり指導を受けた。実りのある講習会となるよう講師一同全力で取り組む。」との挨拶を頂いた。その後、改めて講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導（立会）を開始し、水田講師・太田講師・栗田講師と、石井講師、本名講師、豊村講師の2組に分かれ、立会（審査）形式により各3～4名のグループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず、剣道技術向上や普段の稽古で留意する点など各講師から研修生ひとりひとりに説明された。

立会い終了後、休憩を挟んだ後、回り稽古方式で相互稽古を行った後、講師元立ちによる指導稽古を17時30分まで行い、初日の講習を終了した。

二日目は9時より太田講師による講話から開始した。太田講師は、昨今の剣道指導上におけるパワハラ根絶の重要性、ご自身の虚弱体質からも始められた剣道経験をもとにした剣道技術の解説や、基礎の重要性、また立会いにおける意識の持ち方、剣道の名士であった諸先生方から聞いた言葉や解釈を紹介され、研修生が今後の稽古を行うにあたり多くのヒントとなるお話を頂いた。

引き続き、石井講師解説のもと日本剣道形に移った。剣道形の五つの構えから丁寧に指導があり、栗田講師と手本を示しての各技の詳細の説明を挟みながら、研修生は打太刀、仕太刀を交代し形の稽古を行った。限られた時間ながら、太刀の形、小太刀の形全てを通し充実した講習となった。

昼食時間を挟み、午後の部は13時30分より、豊村講師による指導法・木刀による剣道基本技稽古法が14時30分まで行われた。殆どの研修生がこの基本技稽古法を経験し、かなり浸透してきた為、講習は、竹刀剣道に活かすことを主眼にし、豊村講師が実技の中で、剣道の技との関連性を説明しながら指導が行われ、1時間ほどであったが成果を上げた。この稽古法の趣旨は近年、剣道が競技的な傾向が強すぎるとして、剣道の原点である刀法を意識させ剣道の質を高める為に制定されたものである。

全道連では今後もこの木刀による剣道基本技稽古法を全国的に普及指導する考えである。

休憩をはさみ、水田講師による素振り、面をつけての基本打ち、切り返し等の実技指導が行われた。講習はこれまで講師が修練研究され体得したものを示範しながら微に入り細に入る説明の指導で大変意義ある内容であった。その後、研修生による回り稽古を実施し、特別講師として、高橋講師、矢野講師をお迎えして、全講師元に立ち、指導稽古を行った。

18時30分からは、講師・講習生を交えての懇親会・意見交換会を実施し、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、審査に臨む姿勢、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

最終日は午前6時半より早朝稽古となっていたが、開始時間前に稽古が始まり、この研修に懸ける意気込みが伝わってくる。約一時間の稽古で心地よい汗を流した。

午前9時より初日同様、審査を想定した二回目の立合いを実施した。この二日間講師にアドバイスを受け修練した成果を試す時である。研修生は最後の立合いとあって一段と気迫溢れ、毎回ではあるが前回よりも格段に内容がよく、自分の力を出し切っていたようであった。1組終わるごとに講師から前日同様、懇切なアドバイスを受けて2時間程の立ち合いを修了し、その後講習生同士の回り稽古を実施し、3日間の実技講習が終了した。

閉講式では、講師を代表し、水田講師より講評が述べられ、引き続き、太田副会長が「3日間の研修を通して学んだことを地元に戻っても実践して頂き、率先垂範の意識で修業に励んで頂きたい。また、今週から始まる審査を受審される方は全てを出し切って審査に挑んで頂きたい」旨の挨拶を述べ、研修会のすべてを終了した。今回も熱意溢れる講師陣の指導のもとに大きな成果を上げた。

d 参加人数 46名

講 師	水田 重則	範士八段
	石井 猛	範士八段
	本名 和彦	教士八段
特別講師	高橋 海有	教士八段
	矢野 雅之	教士八段
本部役員	太田 忠徳	範士八段
本部講師	豊村 東盛	範士八段
	栗田和市郎	範士八段

第79回剣道指導者研修会 報告書

- a 実施期間 令和7年3月14日（金）～3月16日（日）
- b 実施場所 全日本少年剣道錬成会館
- c 実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年、3年度に中止した本講習は、一昨年度の第75回開催以降、通常3日間の日程で行っていた内容を2日間に短縮して行ってきたが、前回の78回からコロナ禍以前に講習内容を戻し、前回同様3日間の日程で行った。遠方からの参加者についても宿泊可とし、相当数の講習生が錬成会館に宿泊した。

講習初日、大城戸功講師、滝澤建治講師、恩田浩司講師及び本部講師である岩立三郎副会長、豊村東盛専務理事、栗田和市郎常務理事の全講師による打ち合わせを経て、14時30分に開講式を始めた。岩立三郎副会長より全日本剣道道場連盟を代表して挨拶を頂いた後、講師を代表し大城戸功講師より「3日間、けがの無いよう、実りのある講習会となるよう講師一同全力で取り組む。」との挨拶を頂いた。その後、改めて講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導（立会）を開始し、岩立副会長・大城戸講師・栗田常務理事と、滝澤講師、恩田講師、豊村専務理事の2組に分かれ、立会（審査）形式により各3～4名のグループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず、剣道技術向上や普段の稽古で留意する点など各講師から研修生ひとりひとりに説明された。

立会い終了後、休憩を挟んだ後、回り稽古方式で相互稽古を行った後、講師元立ちによる指導稽古を17時30分まで行い、初日の講習を終了した。

2日目は9時より滝澤講師による講話から開始した。滝澤講師は、昨今の少年剣士の減少の中にあって、剣道を習練する上での理想像として、「強くなりたい」、「上手になりたい」、「勝ちたい」、「合格したい」、また「歴史・文化にふれ伝統を守りたい」等ある中、美しく魅力のある剣道を目指すことの大切さを語られた。そして、事理一致、気剣体一致、など一致という言葉が多く表れるが、「剣道の美しさは、一致の中から自然に醸し出される」ということを申された。そして、「習練自省」することによって上達するということを強調され、研修生が今後の稽古を行うにあたり多くのヒントとなるお話を頂いた。

引き続き、大城戸講師解説のもと日本剣道形に移った。剣道形の五つの構えから丁寧に指導があり、栗田講師と手本を示しての各技の詳細の説明を挟みながら、研修生は打太刀、仕太刀を交代し形の稽古を行った。限られた時間ながら、太刀の形、小太刀の形全てを通し充実した講習となった。

昼食時間を挟み、午後の部は13時10分より、予定にはなかったが、岩立副会長より講話の時間を設けた。まず、剣道に適した姿勢になっているか。①頭のとっぺん②首③胸④腹⑤腰⑥膝・ひかがみ⑦つま先・左足の向き、について、適切な剣道の姿

を図を用いながら説明した。そして、反省することが大事で、「山々雲」の言葉を用い、終生修行の剣道を行うことの大切さを強調した。最後に、大きな「欲」をもって稽古すること、「先」の気持ちでやらないと本物が出てこないことを述べて講話を終了した。

その後、豊村専務理事による指導法・木刀による剣道基本技稽古法が15時15分まで行われた。殆どの研修生がこの基本技稽古法を経験し、かなり浸透してきた為、講習は、竹刀剣道に活かすことを主眼にし、豊村講師が実技の中で、剣道の技との関連性を説明し、鎬の使い方を実践しながら指導が行われ、1時間弱であったが成果を上げた。この稽古法の趣旨は近年、剣道が競技的な傾向が強すぎるとして、剣道の原点である刀法を意識させ剣道の質を高める為に制定されたものである。全道連では今後もこの木刀による剣道基本技稽古法を全国的に普及指導する考えである。

休憩をはさみ、栗田常務理事による素振り、面をつけての基本打ち、切り返し等の実技指導が行われた。講習はこれまで講師が修練研究され体得したものを示範しながら詳細説明の指導で大変意義ある内容であった。その後、研修生による回り稽古を実施し、特別講師として、権瓶講師をお迎えして、全講師元に立ち、指導稽古を行った。

18時30分からは、講師・講習生を交えての懇親会・意見交換会を実施し、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、審査に臨む姿勢、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

最終日は午前6時半より早朝稽古となっていたが、開始時間前に稽古が始まり、この研修に懸ける意気込みが伝わってくる。約50分の稽古で心地よい汗を流した。

午前9時より初日同様、審査を想定した二回目の立合いを実施した。この二日間講師にアドバイスを受け修練した成果を試す時である。研修生は最後の立合いとあって一段と気迫溢れ、毎回ではあるが前回よりも格段に内容がよく、自分の力を出し切っていたようであった。1組終わるごとに講師から前日同様、懇切なアドバイスを受けて2時間程の立ち合いを修了し、その後、講師陣も元に立ち稽古を実施し、3日間の実技講習が終了した。

閉講式では、講師を代表し、滝澤講師より講評が述べられ、引き続き、岩立副会長が「3日間の研修を通して学んだことを地元に戻っても実践して頂き、率先垂範の意識で修業に励んで頂きたい。また、審査を受審される方は全てを出し切って審査に挑んで頂きたい」旨の挨拶を述べ、研修会のすべてを終了した。今回も熱意溢れる講師陣の指導のもとに大きな成果を上げた。

d 参加人数 35 名

講 師	大城戸 功	範士八段
	滝澤 建治	範士八段
	恩田 浩司	範士八段
特別講師	権瓶 功泰	教士八段
本部役員 副会長	岩立 三郎	範士八段
本部講師 専務理事	豊村 東盛	範士八段
	常務理事 栗田和市郎	範士八段

中部地区（富山県）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間 令和6年10月26日（土）～10月27日（日）

実施場所 富山市大山社会体育館

実施内容

本講習会は中部地区の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし富山県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1日目13時、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13時30分からの開講式では、主管県富山県剣道道場連盟佐藤寛理事長司会のもと、村雲荘一富山県剣道道場連盟副会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶、続いて来賓としてお見えになった富山県剣道連盟 大門 進会長より歓迎の挨拶と、今まで富山県剣道連盟と富山県剣道道場連盟は車の両輪のようにお互いに良い関係であり富山県の剣道普及発展の為、これからもより一層この関係を深めていきたい旨のことばを頂いた。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があった。引き続き司会より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1日目は日本剣道形の講習より行われた。まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点、を説明した後、まずは、段別に組まれた受講生同士で太刀の7本目までを実際に打たせ、講習生の習熟度を判断した後、田中講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明。その後、講習生が実技を行うことをくり返す形で講習を行い、大太刀7本、小太刀3本の全てを修練し講習を終えた。日本剣道形に予定された時間が短かった為、一本目よりポイントを押さえた実技指導となった。

休憩をはさみ15時10分より田中講師による実技指導が行われた。講習はまず面を着けずに足さばきや素振りの行い方等の基本指導が行われた後、面を着けての切り返し、面打ち、受講生同士の回り稽古を数回行い講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約30分行って1日目の講習は終了した。

会場を移し、18時30分より宿泊先の「ホテルグランテラス富山」において意見交換会を行い、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

2日目は午前9時、中川忠昭富山県剣道道場連盟会長より挨拶の後、筆頭講師、豊村東盛範士八段の審判法の講話より講習が始まった。内容は本年9月に新型

コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な審判法が改定され、それに伴い『剣道試合・審判・運営要領の手引き』先の全日本剣道選手権大会の審判資料をもとに要点と注意すべき点、変更点が分かりやすく説明された。

その後、審判法の実技の講習が行われた。まず、1 試合場で講習生 3 名が実際に審判を行い、その都度試合を止めながら、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を交えながら講習生に説明を行った後、4 試合場に分かれ、豊村講師が全体を見ながら田中講師、滝下講師、井上講師、小笠事務局員がそれぞれの試合場を担当、受講生をそれぞれ 3 人 1 組に分け審判を、また富山県内の道場連盟加盟道場から選抜された小・中学生がそれぞれの試合場に移動しながら試合を行う形式で行われた。

実技は、それぞれ、各試合において、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を、注意を要する時は試合を止めて意見を聞いて、指導をするなど、時間が短く感じる中身の濃い講習が途中休憩をはさみながら行われ、12 時に午前中の講習を終了した。

午後は、昼食休憩の後、記念撮影を行い 12 時 50 分より講習が行われた。まず、田中講師による準備運動と素振り等基本指導を 10 分程行い、面を着けた後は豊村講師による体の運用、縁を切らないことを重点に置いた面打ちの指導が行われた後、同じく縁を切らないことに重点を置いた講習生同士の回り稽古を 3 回行った。最後に講師元立ちによる指導・相互稽古を 30 分間行った。稽古終了後、「閉講式」が行われ、豊村全道連専務理事より講評として開催と参加の謝辞が述べられた後、これからの剣道普及を行う上で、女性と高齢者への剣道普及が重要であること、少子化が進む現在、是非、入門した子供達をほめて育てる、剣道を辞めさせない指導を行って欲しいと希望の言葉が述べられた。最後に牧本雄一富山県剣道道場連盟副会長より閉会の辞が述べられ講習会を終了した。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備、運営をして頂いた富山県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様と試合者を務めて下さった小・中学生剣士の皆様に深く感謝の意を表します。

受講生	26 日 92 名	27 日 74 名		
講 師	豊村 東盛	範士八段	田中 宏明	教士八段
地元講師	滝下 弘之	教士七段	井上 英之	教士七段

九州地区（鹿児島県）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間 令和6年11月23日（土）～11月24日（日）

実施場所 鹿児島県日置市伊集院総合体育館

実施内容

本講習会は九州地区（鹿児島県）の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし鹿児島県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1日目12時、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13時からの開講式では、主管県鹿児島県剣道道場連盟下野哲郎事務局長司会のもと、上宇都正昭鹿児島県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶、特に少年指導に主眼を置く指導の必要性等のことばを頂いた。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があった。引き続き司会より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1日目は筆頭講師である豊村東盛範士八段より少年指導上の重要ポイントや高段受審者に向けた心構えなどの講話を行った。引き続き日本剣道形の講習を行い、まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点、を説明した後、まずは、段別に組まれた受講生同士で太刀の7本目までを実際に打たせ、講習生の習熟度を判断した後、田島講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明。その後、講習生が実技を行うことをくり返す形で講習を行い、太刀7本、小太刀3本の全てを修練し講習を終えた。一本目よりポイントを押さえた実技指導となった。

休憩をはさみ16時10分より実技指導が行われた。講習は、まず受講生同士の回り稽古を数回行い講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約30分行って1日目の講習は終了した。

会場を移し、19時より鹿児島市内で野村良三鹿児島県剣道連盟会長を交え、意見交換会を行い、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

2日目は午前9時、上宇都正昭鹿児島県剣道道場連盟会長及び野村良三鹿児島県剣道連盟会長より挨拶の後、筆頭講師、豊村東盛範士八段の審判法の講習が始まった。内容は本年9月に新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な審判法が改定され、それに伴う『剣道試合・審判・運営要領の手引き』の追記点、また先の全日本剣道選手権大会の審判資料をもとに要点と注意すべき点、変更点が分かりやすく説明された。

その後、審判法の実技の講習が行われた。まず、1 試合場で講習生 3 名が実際に審判を行い、その都度試合を止めながら、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を交えながら講習生に説明を行った後、受講生をそれぞれ 3 人 1 組に分け、また鹿児島県内の道場連盟加盟道場から選抜された小学生が試合を行う形式で審判の実技講習が行われた。

実技講習は、それぞれ、各試合において、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を、注意を要する時は試合を止めて意見を聞いて指導をするなど、時間が短く感じる中身の濃い講習が途中休憩をはさみながら行われ、1 1 時 3 0 分に午前中の講習を終了した。

午後、昼食休憩の後、1 2 時 3 0 分より引き続き、審判法の実技の講習が行われた。受講生が、必ず主審を行えるよう、3 人 1 組の審判員に組分け審判講習を行った。その後、参加者全員での写真撮影を行い、指導法の実技講習に移った。まず、豊村講師による素振り等基本指導を 1 5 分程行い、面を着けた後は豊村講師による体の運用、竹刀を打突のぎりぎりまで抑えての面打ち、縁を切らないことを重点に置いた攻めの指導が行われた後、切り返しの指導を行った。切り返しは、受ける側の竹刀に打突が線であたるのではなく、点であたるように指導された。その後、気合を十分にかけて、縁を切らないことに重点を置いた講習生同士の回り稽古を 6 ～ 7 回行った。最後に講師元立ちによる指導・相互稽古を約 3 0 分間行った。稽古終了後、「閉講式」が行われ、豊村全道連専務理事より講評として開催と参加の謝辞が述べられた後、これからの剣道普及を行う上で、女性と高齢者への剣道普及が重要であること、少子化が進む現在、是非、入門した子供達をほめて育てる、剣道を辞めさせない指導を行って欲しいと希望の言葉が述べられた。最後に上宇都正昭鹿児島県剣道道場連盟会長より閉会の辞が述べられ講習会を終了した。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備、運営をして頂いた鹿児島県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様と試合者を務めて下さった小学生剣士の皆様に深く感謝の意を表します。また、宮崎県からも多くの受講生が参加されたことに感謝いたします。

受講生	2 3 日	3 2 名	2 4 日	5 6 名
講 師	豊村 東盛	範士八段		
地元講師	田島 誠	範士八段	吉崎 和穂	教士七段